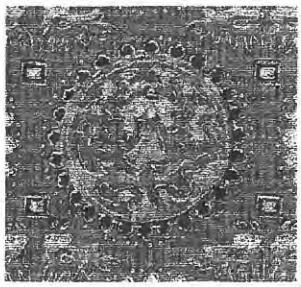
NPO JCP
Japan Conservation Project

NPO JCP NEWS

No. 5

2003. 5. 20



・事務局長就任挨拶
・報告－第１回シンポジウム「文化財保存支援活動」
——ＮＰＯ ＪＣＰが果たす役割——を終えて
・ボランティアとしてＪＣＰの活動に参加して
・シリーズ 保存修復の現場から
「伝統を生かし続けるために」
・書籍紹介『文化財学の構想』
・ＪＣＰ事務局通信

ご 挨 拶

ともに前進を

文化財が修復で蘇るケースをいくつも見て来ました。これまで務めた（財）文化財保護振興財団は保存修復事業への助成が主な仕事ですが、修復前の状態をナマで見たり、申請資料の写真で眺めたりして、それがやがては完了後の姿で会うことが出来る、これは大きな喜びでした。

こんどのジェー・シー・ピーは修復技術者の集団、つまりは臨床の方々と身近にお付き合いが出来るわけで、これはまた新たな人的ネットワークが広がり、修復のプロセスも真近に接することが出来る、と新たな向上心が湧いてきます。

しかし、ＮＰＯというスタンスはいかなるものなのか、正直云って戸惑いもあります。非営利なのだから、かせぎを目的にしてはいけない。かといって、おカネなしには何も出来ない。免税措置がまだないから活動に賛同頂いている企業や個人からの寄付も大口は期待出来ない。では、公的機関からの助成金や事業資金をあてにする方策を考えるには、具体的な事業を確定しないことには申請も出来ない。その情報、どこにどんなＮＰＯ的スタンスを生かせる、あるいは利用してくれる事業や相手があるかのリサーチが重要だとまず思っています。事業が見つかったとして、それにだれを派遣出来るのか、それだけの層をどこまで保有が可能なのかの人的情報も必要だし、有能な技術者を日頃従事している仕事を離れて専任してもらえる態勢をどう構築していくのか、あるいは若干名の専任を有し、工房もある小回りの効く活動拠点を置くような構想が描けるのか。

これらはひとえに、一握りではない参画しておられる皆様ひとりひとりの課題でもあるわけで、皆様のさまざまなお知恵とお力のオーラを頂戴してともに前進して参りたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人　ジェー・シー・ピー
事務局長　谷　　久　光

報告

NPO JCP第1回シンポジウム

「文化財保存支援活動」——ＮＰＯ ＪＣＰが果たす役割——を終えて

増澤　文武（NPO JCP理事／第1回シンポジウム実行委員長）

平成13年３月に発足以来、実際の事業展開と同時に、会員への還元をどのようにすべきか、その一つとしてシンポジウムや研修が挙げられていた。そのテーマをどうすべきか検討する中で、８月の運営委員会において、基本的な疑問として「ＮＰＯって何か、マスコミでは毎日のように、ＮＧＯ、ＮＰＯが取り上げられているが、実際にはなかなか理解しにくい。会員を募るにしても、事業の説明をするにしてもNPOとは何か、またＪＣＰは具体的に何をするのか、何をしているのか、何を期待して良いのか」の説明を必要とするという現状が提示された。そこで、第１回目は、この問題を取り上げ、会員ならびにＮＰＯ ＪＣＰに関心をお持ちの方々にお聞きいただき、少しでもその疑問に答えることと、我々自身が、改めて基本的な観点に立って、今後の展開に役立てようと上記のテーマを設定した。

このテーマは会員への直接的な還元には至らないが、創建期のテーマとしては、最も大事な問題であり、多くの方々に理解して貰う必要があると考えられた。

３月の年度末に実施することに対しては、会員や一般の方々にお集まりいただけるか、疑問も出されたが、年度内の実施を目指し実施することの意義を優先した。しかし、当日の予報は本格的な雨降りと報道され、出足が鈍ることが最も懸念された。幸い、始まるまでには席が埋まり次第に増加して、何よりも嬉しかったことは終わりまでほとんど席を立つ人がおられず皆さんにお聞き頂けたことであった。

午前の部は、ＮＰＯＪＣＰの現状と方針、ならびにＮＰＯとは何か、それをベースとした方向性など、基本的な観点から講演を企画した。基調講演として三輪理事長から、ＪＣＰの基本理念と現況が示された。それは、①社会福祉の面で、ＮＰＯなどの活動が表に出ているが、ＪＣＰは文化の面で社会奉仕を進めること、②現状では登録会員が装こうに偏っているが、幅広く文化財の保護支援を行っていきたいこと、③予算面の困難さを抱えているが、海外に関しては、ＪＩＣＡやＯＤＡと積極的に組み、問題解決を図って行きたいこと、④国内の博物館や美術館のコンサバター（文化財保存修復管理官：学芸員ではなく、文化財保存を目的とした仕事に従事する専門官）が非常に少ないのでそれを補いたいとし、⑤国レベルで今後ＮＧＯ、ＮＰＯを積極的な活用が考えられていることが提示された。

次の井上敏氏の講演は、上記のＪＣＰの基本方針をバックアップするＮＰＯ制度について、文化財保護の法律研究の立場から、①国立博物館、文化財研究所の独立行政法人化、埋蔵文化財センターの現況と今後、大学における文化財の専門家の養成などに触れ、②我が国におけるＮＰＯ制度の特徴と問題点を概観し、更に踏み込んで、ＮＰＯであるＪＣＰの活動の場、たとえば文化財に関わる総合的・横断的な対応と教育の場としての現場提供などの提案がなされた。

午後の部では三浦功美子氏による東京文化財研究所のイクロム主催の紙の保存修復国際研修、大林賢太郎氏による国内外の事業報告がなされた。その上で、ＮＰＯのユーザーの立場から臼杵市教育委員会の岡村一幸氏が近世古絵図の史料の保存についての現状を話された。これは一地方の行政が抱える文化財保存の差し迫った問題の提起であったが、とりもなおさず各地で抱えているであろう問題であってアンケートの結果でも最も関心を引いたものであった。ここにＮＰＯＪＣＰがやるべき、あるいは解決して行くべき課題が凝縮されたものと思われた。併せて、期しくも発注者として、ＮＰＯのどこに信頼性を求めるかという疑問が提示され、技術者集団であればこそ、公共性の名の下に会員の利益追求の場にならないかといった懸念があることが示された。

上記の基本的な講演と具体的な例を踏まえた上で、「ＪＣＰに期待される文化財保存支援活動」について理事長の司会の下で、文化財の保存修復の経済的支援を長年行ってきた（財）文化財保護振興財団の谷氏、装こうの世界で研究

と指導に当たられてきた増田氏、博物館のコンサバターとして改革を進める神庭氏と筆者によるパネルディスカッションがなされた。ＪＣＰが始動し始めたばかりであり、未だ固まった状態にないだけに多くの課題が取り上げられ、①ＪＣＰが派遣するメンバーの質的評価、②ＮＰＯとしての基本姿勢を常にチェックし軌道から外れることを避けること、③国内事業の拡大と経済面をどうすべきかといったＮＰＯＪＣＰへの注文と課題の提示がなされ、併せて期待されるものとして、④専門知識を持つ人材の少ない地方に対して支援を求める、⑤文化財に関わる大学卒業者を始めとする若者の現場教育（インターンシップなど）、更には⑥ＮＰＯの立場であれば文化財保存修復に関する資格制度を作る可能性などが出された。議論百出で結論が出せるものではなかったが、今後の課題と多くの期待を課せられたものとして締めくくられた。

メールマガジンNo.2,3の八木の報告と重複するが、参加者はスタッフを含めて95名、アンケートは30通の回答を得た。その中で、“面白かったかどうか”との問いに、“面白い”が17名、“面白くなかった”が１名、“普通”が11名であった。“興味を持ったものは？”との問いに対しては、ＮＰＯの法律に基づくものと、実際の現場の情況を挙げた回答が多く、参加者のこのシンポジウムへの期待と反応を伺うことが出来た。これに呼応して“ＮＰＯＪＣＰの内容が理解できたか”との問いには、“よく分かった”が７名、“まあまあ”が20名であったことから、このテーマによるシンポジウムを行ったことは時期を得たものであり、今後生きてくるものと思われる。同時に、ＮＰＯならびにＮＰＯＪＣＰの理解を図る努力がより一層求められていることを感じた。他にもアンケートには多くの意見が寄せられ、ＮＰＯＪＣＰの事業報告をより深く報告して欲しいという例と他の報告で知り得るので必要ないとの両意見があったが、これらについては他の機会に譲りたい。

ひとつ、大きな反省として、開催時期を３月初めに設定したことは学生の帰省と重なり、参加がみられなかったことである。これは後継者の養成を期待されているＮＰＯ ＪＣＰとして将来の文化財保存を担うメンバーを得られなかったことを意味する。次回からはこれを教訓としたい。

最後に、本シンポジウムを日本経済新聞の３月７日44面の文化往来で取り上げられた。ＮＰＯについて日経が今後特集を組むようであるが、それ以前に取り上げられたことを喜びたい。本シンポジウムを開催するにあたり、財団法人　文化財保護振興財団と文化財保存修復学会がご後援下さり、考古科学シンポジウムがご協力下さいましたことに対して心からお礼申し上げます。併せて、午前の司会をしていただいた三浦定俊氏、各講演者ならびにパネリストの方々、忙しい中を事務局スタッフとしてシンポジウムの裏方を務めていただいた下記の方々に謝意を表します。

新井榛名、犬竹和、井上敏、島田達生、嶋根隆一、鈴木晴彦、竹内進一、竹内朋世、中森智恵子、平野有里、本多聡、三浦功美子、村上直子、安田智子（アイウエオ順、敬称略）

アンケート調査結果

1.シンポジウムはいかがでしたか？

	面白かった	普通	面白くなかった	無回答	合　計
賛助会員	2	0	0	0	2
登録会員	6	0	0	0	6
一般会員	0	0	0	0	0
非 会 員	9	10	1	0	20
不　明	0	1	0	1	2
合　計	17	11	1	1	30

2.ＮＰＯ ＪＣＰの活動内容が分かったか？

	良く分かった	まあまあ	分からなかった	無回答	合　計
賛助会員	2	0	0	0	2
登録会員	1	5	0	0	6
一般会員	0	0	0	0	0
非 会 員	4	13	3	0	20
不　明	0	2	0	0	2
合　計	7	20	3	0	30

☆興味を持った講演はどれでしょうか？

	三輪嘉六	三浦功美子	井上敏	大林（国外）	大林（国内）	岡村一幸
賛助会員	0	0	0	0	0	0
登録会員	0	1	2	1	0	4
一般会員	0	0	0	0	0	0
非 会 員	1	1	4	1	1	9
不　明	0	0	1	0	0	0
合　計	1	2	7	2	1	13

	パネルディスカッション	無回答	合　計
賛助会員	0	2	2
登録会員	1	1	10
一般会員	0	0	0
非 会 員	2	5	24
不　明	0	1	2
合　計	3	9	38

☆どのようなところが分かりづらかったでしょうか？

	回答あり	無回答	合　計
賛助会員	0	2	2
登録会員	0	6	6
一般会員	0	0	0
非 会 員	10	10	20
不　明	2	0	2
合　計	12	18	30

・ＪＣＰの具体的な活動内容をもう少し聞きたかった。
・システムがよく理解できない。
・法的にしっかりした団体とするためどこまで準備を進めているのか、予定を聞きたかった。
・事例報告の技術、経費の問題点をもう少し詳しく聞きたかった。
・ＮＰＯとして具体的にどのように活動していくのか。
・なぜ海外支援を行うのか?

・初めに文化保存のために今社会が求めているものは何かを具体的に示し、それに対する取り組みという意味でのシンポジウムにしてほしかった。
・理念と経営
・事例報告を深く掘り下げ具体的な問題を検討して欲しかった。
・井上氏の講演が時間切れになってしまい、もっと聞きたかった。
・事例報告は資料を見ればわかるので、時間配分を考えた方が良い。
・国外事例はもっと写真資料が欲しかった。
・ＪＣＰの活動内容は分かったが、組織と登録会員の関係が分からなかった。
・支援活動の決定基準。

3.次回のシンポジウムはどのようなテーマを期待しますか？

	回答あり	無回答	合　計
賛助会員	1	1	2
登録会員	4	2	6
一般会員	0	0	0
非 会 員	9	11	20
不　明	1	1	2
合　計	15	15	30

・ＮＰＯについて、基本的なもの。
・震災時の活動について。
・法的にしっかりした団体とするためどこまで準備を進めているのか、予定など。
・事例の具体的な課題・問題点の実際と対策。
・国際協力の面から見た文化財保護
・ＮＰＯの主旨。ＮＰＯとは何か？　なぜＮＰＯでなければならないのか？
・文化財に関わるＮＰＯ活動ネットワーク。
・日本における洋画修復保存について。
・企業、行政、館、市民の連携の具体的な方法について。
・全国市町村の文化財の現状。
・仕事をしている方の感じている事をそのまま講演などですれば、個人として何を学ぶべきかが明確になってくるのでは。
・異分野の技術者、研究所、専門家同志での保存・修復に対する意見交換。
・シンポジウム以外でも、ＪＣＰの活動についての話がきける機会があると良い。
・一般会員の活動参加についての報告。
・事業の具体的な成果報告。
・文化財の保存を市民に浸透させるテーマ。

4.どのような企画に参加したいですか？

	講演会	研修会	見学会	ボランティア講習会	交流会	その他	無回答	合　計
賛助会員	1	2	0	0	1	0	0	4
登録会員	5	5	4	3	4	0	0	21
一般会員	0	0	0	0	0	0	0	0
非 会 員	13	6	5	4	2	2	2	34
不　明	1	0	0	0	0	0	1	2
合　計	20	13	9	7	7	2	3	61

※複数回答

5.ＪＣＰの活動に参加したいですか？

	したい	したくない	分からない	無回答	合　計
賛助会員	1	0	1	0	2
登録会員	5	0	1	0	6
一般会員	0	0	0	0	0
非 会 員	6	0	13	1	20
不　明	1	1	0	0	2
合　計	13	1	15	1	30

6.ＪＣＰのどのような活動に期待しますか？

	文化財修復事業	講演会・講習会の開催	人材の養成	被災地文化財の救援	情報公開	その他	無回答	合　計
賛助会員	1	2	2	1	0	1	0	7
登録会員	5	4	3	5	4	1	0	22
一般会員	0	0	0	0	0	0	0	0
非 会 員	12	12	10	7	9	0	1	51
不　明	1	0	1	0	0	0	1	3
合　計	19	18	16	13	13	2	2	83

※複数回答

☆具体的な内容がありましたら、お聞かせください。

	回答あり	無回答	合　計
賛助会員	0	2	2
登録会員	1	5	6
一般会員	0	0	0
非 会 員	5	15	20
不　明	1	1	2
合　計	7	23	30

・学生へのインターン。研修、留学制度。
・震災時の支援。
・文化財保存と街づくりのＮＰＯの活動のあり方。
・業者との連携。
・市民への情報公開の徹底。
・地方文化財の学芸員、表具師、額装店等の教育。

7.何かご意見・ご感想がありましたら、お聞かせください。

・ＮＰＯの可能性は大きいと思った。
・事前のＰＲが足りなかったのか、参加者が少ない。マスコミをもっと利用してＰＲすべき。
・これから保存修復について勉強していき、仕事をしたいと思っている。大学後の実習の機会を充実させてほしい。
・ＮＰＯ　ＪＣＰの呼称を「ＮＰＯ」と話すと一般のＮＰＯとの違いがわかりにくくなるのではないか。
・一般参加者が質問、意見の発言の機会が無かったのが残念だった。
・民間企業は利益が出ないと事業は無理だと思うが、どこまでその事業の追求ができるのか？
・ＪＣＰ組織メンバーになる資格基準は？
・専門家だけではなく、興味を持っている一般の方も文化財を考えていけるような開かれた活動ができないでしょうか？
・学生とともに何らかの形で活動に協力していきたいと考えている。
・時間が赦す限り活動に参加したいと思っていますので、どんどん呼んでください。
・私なりの協力の形というのはあると思っています。がんばってください。

ＪＣＰの活動に参加して

国立国会図書館　村上　直子

私は昨年10月に行われたイクロムの紙の研修と今年３月のＪＣＰ第一回シンポジウムにボランティアとして参加させていただいた。まだ仕事の経験年数も浅く、ＪＣＰという組織の存在は知っていたが自分が参加するとは思ってもおらず、上司が持ってきた「イクロム紙の研修」の技術補佐ボランティア募集のお知らせを見て、研修のボランティア参加を希望し、何もわからないまま会員に登録させていただいた。

「イクロム紙の研修」については三浦氏より報告済みである。まず、３週間の実技の講義内容を見て驚いた。装?作品の解説や、取り扱いの説明、補修から応急手当まで、外国の研修生向けに三浦氏とベテランの講師陣が打合せを重ね考え抜かれた、日本人対象には存在しないであろう憧れのプログラムであった。全日程に参加したいくらいであったが、職場と相談し、その中で竹内進一氏、竹内朋世氏による屏風、鈴木晴彦氏の裏打ち、鈴木裕氏による掛軸これら

３日間の講義に技術補佐ボランティアとして参加させていただいた。

研修生の方は真剣に講義を受け、講師の方々はとても熱心に指導され、三浦氏が上手にまとめておられた。実際に手を動かして見せることと、講師の方の熱意で通訳なしでも伝わっているのではと思うが、これに絶妙のタイミングでテンポよく通訳が加わり、とてもわかりやすくかった。八木氏は事務局からサポートしておられ、多くの方の努力で充実した研修であった。技術補佐というより、私も一研修生としてお邪魔してしまい申し訳なく思っておりますが、自分の職場以外で動いている手を見ることができ、また研修時に講師の方や、打ち上げで他の講師の方々にお話をうかがうことができたのは修復保存を志す私のようなものにほんとうに有難いことでした。このような機会を与えてくださったＪＣＰに心より感謝しております。ありがとうございました。

このように「紙の研修」は素晴らしかったが、慌てて会員になったので、ＪＣＰのその他の活動内容も知らず、そもそも、ＮＰＯとは何なのかさえも理解していなかった。それらはこの3月に行われた第一回シンポジウムで詳しい説明がされた。私は今回もボランティアで参加させていただき、受付を少しだけ担当した。一日がかりのスケジュールであったが、どの内容も興味深く、もっと聞いていたいものばかりだった。ＮＰＯとは何なのか？　社会でどのような位置付けなのか。それを井上先生がわかりやすく解説して下さった。そして臼杵市教育委員会の岡村氏の報告は外部からの評価や、仕事の依頼者という立場から正直なお考えを伺えて大変参考になった。パネルディスカッションでは様々な問題点が指摘された。私は今まで、研修や、そこで知り合った講師の方、スタッフの方が素晴らしい方ばかりだったので、ＪＣＰの外部評価や問題というのがわかっていなかったが、シンポジウムを伺い、１歩離れて物事を見ることができてよかった。問題はたくさんあるようだが、それを上回る期待を背負っている。１歩ずつ進んでいくＪＣＰの活動に今後も期待しております。

村上直子さんプロフィール
・兵庫県生まれ
・神戸親和女子大学卒業後、㈱田崎真珠勤務、青年海外協力隊を経て、2001年より国立国会図書館　収集部資料保存課

保存修理の現場から

（インタビュアー：八木三香／三浦功美子）

「伝統を生かし続けるために」

（有）根本　代表取締役社長　根本　則男さん

・1949年福島県いわき市生まれ
・1986年（有）根本設立
・現在（有）根本代表取締役社長

設立以来、ＪＣＰは現場密着型ＮＰＯでありたいと願ってきました。文化財保存の論理を机上で展開するのではなく、それを実際施工する技術者と連携させ、文化財を守り伝えることによって文化そのものを豊かにしてゆく……そんな団体でありたいと思っています。

つねづね現場の声を反映した活動をしたいと思っていたところ、その声を伝えてくれる強力なメッセンジャーが現れました。

表装材料を扱っている根本さんです。根本さんは全国約150の工房を回り、現場のニーズにあわせた材料・道具を提供しています。この道に入って32年。高度成長、バブルを通過してきた日本の技術者に、あえて今警鐘を鳴らしています。

その思いとは？　そしてＪＣＰができることとは？

今号からはゲストとの双方向の対話をめざし、ＪＣＰの活動に反映させて行くことを目的に「保存修復の現場」をレポートしたいと思います。

地域に密着した文化財修復技術者の育成を

「ＪＣＰが今何をしたらいいのかというならば、端的にいって①文化財の修復事業、②技術者の育成、そして③諸材料生産者の保護育成だと思います。」

根本さんは実に明快にＪＣＰへの期待を指摘してくれました。

最初は絵描きになりたかった、身過ぎのため就職としてこの業界に入った、という根本さんですが、この世界に入ってみると、蘊蓄にとんだ表具師がいっぱいいて話を聞かせてもらい、表具に用いる紙、裂地（きれじ）、諸材料など勉

強していくうちに、日本文化の奥深さを知った、日本は技（わざ）文化でささえられているとつくづく感じるようになった、と言います。

しかし、高度成長期、バブル期を通過して、伝統材料の世界にも大きな変化がもたらされました。「地域の表具屋さんに関していえば、高度成長期、バブル期仕事がたくさん入ってきたうえに、省力化効率化でかなり変化した時期があります。早い時期から文化財修復にシフトし、技術レベルを保ってきた技術者と違い、伝統技法や素材に対する情報が混乱した時期があったわけです」

例えば紙の問題、接着剤の問題。経済効率や利便性を重視して、さまざまな材料や製作工程が導入された結果、見た目だけで質のよしあしを判断するのは難しくなっている。同じ顔をしている紙でも、素材が違えば耐久性やphなどに大きな相違ができ、文化財への影響も未知数となる。それを判断し、適切な素材を選択していくのは、ユーザー（技術者）側の意識にかかっているともいえますが、情報を出したがらない日本の風土とあいまって、判断材料が大幅に不足しているのが現状です。

「その結果技術はありながら取り残されている技術者がいます。そうした人たちを引き上げ、地域に密着した修復技術者として育てていくのも文化財保存支援機構たるＪＣＰの役割ではないでしょうか？　適切な材料を使って文化財を後世に伝えていこうという認識と技術を持ちながら、実際材料の選択や判断に悩んでいる技術者が地域には存在します。実践的な講習会や情報公開によって、そうした技術者やこれからの若手を育てることによって、中央が置き去りにしている枝葉の部分――地域に密着した文化財――をきめ細かくケアしていくことができるようになるんじゃないでしょうか？」

裾野を広げる――これはまさにＪＣＰが掲げてきた目標の一つです。

材料生産者の保護育成について

根本さんに依れば、戦後の高度成長期は材料生産の現場にも大きな影響を与えました。

効率化優先で伝統的に継承してきた生産技術を一度放棄したところも少なくないといいます。いまや伝統的に作られてきた材料を知らぬ世代も出てきており、比較対照が無いために質の判定が出来ないという事態も起きているそうです。

材料の質を判断するために、文化財に使用している材料はこういうものであるという客観的データを出すことが求められています。情報が普及することによってユーザーはふえるでしょうし、ユーザーが増えれば生産者の数も増え、競争力が高まる、そうすれば材料の質的向上も促される……。こうした構図を作っていく必要があります。それにはレベルが高いところの情報を出し、生産者の意識を引き上げていく、という状況を作り出さなければならない。ＮＰＯができたと聞いたとき、こうしたことをしてくれる団体がやっとできたか、という思いがありました。遅すぎるぐらいだと思っています」

こちらも発足当初から材料のデータベースを作りたいとお題目のように唱えていました。ちょうど同じ思いを持っている表装材料屋さんがもう一軒存在します。賛助会員でもある京都の溝川商店です。ＪＣＰは初期の頃から溝川さんの協力を仰ぎ、データベース作成を進めようとしていました。それをなかなか形にしあげられないのはこちらの非力と、反省しきりです。

「文化財保存支援機構ならば、一日も早く情報を明文化するなりして公開する必要があると思う」

根本さんの言葉は重く響きました。今年度は根本さんの協力も頂いて、少しずつでもＨＰで公開できるよう、データベース化を進めたいと考えています。御協力いただける方、事務局までご連絡を……。

一般市民にも参加の場を

また根本さんは一般会員の存在についても言及してくれました。

「文化財がどのように出来ているのか、どのような素材を使ってどんなふうに直すのか、そんな情報が広まっていけば専門家だけでなく、確かな目、想い、期待を持った一般の会員も増える。それがＪＣＰの活性化につながれるのではないでしょうか？　いまや一般の家庭で掛軸・屏風を飾ってみようという人は少ないでしょう。一人でも二人でもそんな人を増やさないと、掛軸などは世の中からなくなっていきますよ。今日本で掛軸などに描ける人も少なくなっています。材料に関して言えば、桐材・漆など従来日本で生産され製作されてきた材料が、現在作り手や後継者不足が原因で海外に依存しているありさまです。このままでいくと日本国内での生産が途絶えてしまう危険があります。途絶えてしまったものを復興させるのは大変な努力が要ります。

日本産の材料と海外産の材料では、気候や風土の違いによって製品にしたときにやはり違いがあります。日本の風土で保存していくためには、日本産のものがやはり適しているのです。ただ使うほうもだんだん違いがわからなくなっています。それは日本の文化自体が危ないということです」

100年200年付き合ってきたものをもう一度きちんと検証し、いったん途絶えてしまった伝統材料を取り戻したい。日本の伝統材料、伝統技法は連綿と今日から明日へ続いているものであり、その限りにおいて「古い」という表現はありえない。「古いもの」というのは、いったん死んだものに対する言い方であり、伝統材料、技法は今まさに呼吸をし、生きているもの、明日へとつながっていくものだ、と根本さんは言います。

「この営みが途切れたときは、ひとつの文化が死ぬときです。国は文化で支えられているものなのだから、自分はこの文化を守りたい」

根本さんの熱い思いがひしひしと伝わってきました。
根本さん、是非いっしょに守って行きましょう。

書籍紹介

『文化財学の構想』

考古学・保存科学・美術史・建築史・日本史・・・さまざまな学問の枠を超え、「文化財学」を提唱する

三輪嘉六編・勉誠出版・2003年3月20日刊

三輪嘉六編――と聞いて、これは読まなければ、と早速購入してみました。

「衆知を合わせ新たな学問『文化財学』を提唱する」と帯に書かれていたキャッチフレーズに、思わず期待を持って本を開きました。

本書は平成13年11月25日に日本女子大学で行われたシンポジウムの講演収録集です。このシンポジウムは、同大学において醍醐寺伝来の文化財を素材として行ってきた寄付授業「文化財学」を総括する意味と、「文化財学」の体系化を提唱する目的をもって開催されました。

現在日本では20あまりの大学が「文化財学科」を開設しているそうですが、「文化財学科」の一般的イメージとしては「文化財に関することを教えてくれる学科」ぐらいのもので、「文化財学」という概念で捉えてみることは稀だったように思います。大学での授業は既存の縦割りの学問の中で進められており、これを横につなげて総合的に捉えていかなければならない、というのがシンポジウム開催者の提言するところです。

それにはまず「文化財」とは何か、「保存する」とはどういうことか、どのように「活用」すべきなのか……などを分野を超えて真剣に考えていく必要があります。このシンポジウムはその端緒を切ろうというものです。

開催者の一人永村眞教授が言っているように、このシンポジウム自体縦割りの枠をまだ脱し切れているとはいえませんが、「文化財」という概念の時代的変化に悩みつつ、保存と活用を真摯に考えていこうとする各分野の専門家の努力が伝わってきます。

単なる学究を中心にした伝承でもなく、「宗教の対象」という殻をも破り、「文化財学」という総合的なものの考えで文化財の伝承を考えていこう――この提言が、従来の学者や専門家ではなく、醍醐寺という歴史ある寺院の総長から発せられたことに、日本も捨てたものではないな、という思いを強くしました。

（八木　三香）

JCP事務局通信

事務局日々

2003.2.21　東京国立博物館浮世絵マウント支援（大林、島田）
2003.2.22　JCP第1回シンポジウムプロジェクトメンバーによる打ち合わせ会（谷中・三浦功美子邸にて）
2003.3.1　NPO JCP第1回シンポジウム（三輪、増澤、井上、三浦定俊、大林、八木、三浦功美子、島田、新井、犬竹、嶋根、鈴木晴彦、竹内進一／朋世、本多、村上、安田他）
2003.3.4　（財）日本財団訪問　助成相談（三輪、八木）
パイロット株式会社資料室石井様来室（八木）
2003.3.26　（財）文化財保護振興財団訪問（三輪、八木）
2003.4.1　谷事務局長就任
2003.4.9　東文研所長を訪問（谷）
2003.4.18　東京国立博物館浮世絵マウント支援（大林、島田）
2003.4.19　パイロット㈱平塚工場資料室にて調査（大林）
2003.4.20　平成15年度第1回理事会（理事、事務局）
2002.4.22　文化庁文化財部伝統文化課訪問（増澤、谷、八木）
2003.5.7　根本則男氏インタビュー（三浦、八木）
2003.5.10　ミュージアム都留（山梨県）にて調査・打ち合わせ（伊原、八木）
2003.5.15　東文研青木先生訪問（八木）
2003.5.16　京都造形芸術大学伊達先生訪問（谷、八木）
2003.5.17　㈱文化財保存訪問（谷、八木）
2003.5.10～24　韓国中央博物館壁画修理協力（大林）

ＪＣＰからのお知らせ

「ＮＰＯ ＪＣＰ 総会報告会のお知らせ」

ＮＰＯ ＪＣＰ平成15年度定例総会報告会を下記の日時に開催いたします。

内容は、平成14年度会計報告／事業報告、平成15年度予算/事業予定の報告などです。開催日は前年に引き続き、文化財保存修復学会大会*開催に合わせ、同会場内で行います。非会員の方もお誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

日時：平成15年6月8日（日）
午後4時30分より
場所：京都造形芸術大学人間館（修復学会開催場）4F
ＮＡ409教室
定員：60名
交通アクセス：
○市バス204系統循環「上終町京都造形芸術大学前」下車（北大路駅より約15分　地下鉄北大路駅へはJR京都駅より約15分）
○市バス3系統／北白川仕伏町行「北白川別当町」下車北へ徒歩5分　京阪出町柳駅より所要時間20分
○市バス3系統／百万遍・上終町京都造形芸術大行き「上終町　京都造形芸術大学前」下車（京阪出町柳駅より30分）
○叡山電鉄（京阪出町柳駅のりかえ）茶山駅より徒歩10分

※関連団体イベントのお知らせ

「化財保存修復学会第25回大会　於　京都」

・日程：２００３年6月7日（土）・8日（日）
・場所：京都造形芸術大学　春秋座
（京都市左京区北白川瓜生山2-116）
・参加費：会員；3,000円
学生；2,000円
非会員；5,000円
賛助会員；1団体3人まで一人3,000円、4人目から一人4,000円

※申し込みなど詳細については、ホームページ http://www1.ocn.ne.jp/~jsccp/03KYOTOZ/1st_c.html をご参照下さい。

ご入会ありがとうございました。

（平成15年5月20日現在入会者数）

□登録会員　116名（運営会員を含む）
□一般会員　103名
□賛助会員　15件
（計　234件）

・㈱岡墨光堂
・（財）元興寺文化財研究所
・京都造形芸術大学
歴史遺産研究センター
・(有)坂田墨珠堂
・昭和不動産
・靖斎文化財保存研究所
・日本通運株式会社美術品事業部
・羽生　卓史
・㈱半田九清堂
・百元　節
・㈱文化財保存
・溝川商店
・他個人3名

（アイウエオ順・敬称略）

ご寄附をありがとうございました。

・長田玲子様　・神庭信幸様　・島田達生様
・谷久光様　・中森智恵子様　・平野有里様
・増田勝彦様　・三浦定俊様

ＮＰＯＪＣＰの活動に参加してみませんか？

□ **登録会員**：年会費　7,000円
文化財保存に関わる専門的技能を持ち、プロジェクト遂行に協力する個人。
登録会員は文化財の保存事業を行うための専門家で，文化財に直接関わる専門家とは限りません。

□ **一般会員**：年会費　5,000円
この法人の目的に賛同し、支援する個人。

□ **賛助会員**：年会費　一口50,000円
この法人の目的に賛同し、支援する団体、個人。

会員特典　・季刊情報誌の送付
・講演会／研修会等への優先参加

※入会ご希望の方は、下記のファックス、お電話、メールにて申し込み用紙をご請求下さい。おり返し資料をお送りいたします。また、ホームページからでも入会申し込みができます。

TEL/FAX：03-5832-5440
E-mail: jimukyoku@jcpnpo.org
URL:www.jcpnpo.org

※この他にも、随時寄附を受け付けております。下記の郵便振替、あるいは銀行口座をご利用下さい。
・郵便振替　00120-4-10545　NPO JCP
・みずほ銀行　根津駅前支店　普通預金　1727893

ＮＰＯ　ＪＣＰ　ＮＥＷＳ
第5号
2003年5月20日発行
特定非営利活動法人　ジェー・シー・ピー
〒113-0031
文京区根津2-18-6-102
TEL/FAX：03-5832-5440
E-mail: jimukyoku@jcpnpo.org
URL: www.jcpnpo.org

〈理　事〉
三輪嘉六（理事長・評議員）
大林賢太郎(副理事長)
伊原惠司(評議員)
白井久明
増澤文武(評議員)

〈評議員〉
三浦定俊
田畔徳一

〈編集協力〉・嶋根隆一　・三浦功美子
〈事務局〉・谷久光（事務局長）・八木三香（総務部長）
・白戸満喜子